



グリッドノードをホストにリストアします StorageGRID

NetApp
October 03, 2025

目次

グリッドノードをホストにリストアします	1
グリッドノードをリストアして検証する	1
ネットワークインターフェイスが見つからないエラーを修正	3
ブロックデバイスが見つからないエラーを修正します	3
StorageGRID ホストサービスを開始する	4
正常に開始しないノードをリカバリします	5

グリッドノードをホストにリストアします

障害グリッドノードを新しい Linux ホストにリストアするには、適切なコマンドを使用してノード構成ファイルをリストアします。

新規インストールを実行するときは、ホストにインストールするグリッドノードごとにノード構成ファイルを作成します。交換ホストにグリッドノードをリストアするときは、障害グリッドノードのノード構成ファイルをリストアまたは交換します。

以前のホストのブロックストレージボリュームが保持されている場合は、追加のリカバリ手順の実行が必要になることがあります。このセクションのコマンドを使用して、必要な追加手順を特定できます。

手順

- [グリッドノードをリストアして検証する](#)
- [StorageGRID ホストサービスを開始する](#)
- [正常に開始しないノードをリカバリします](#)

グリッドノードをリストアして検証する

障害グリッドノードのグリッド構成ファイルをリストアして検証し、エラーをすべて解決する必要があります。

このタスクについて

前のホストで障害が発生しても '/var/local' ボリュームが失われていない限り、ホスト上に存在する必要があるすべてのグリッド・ノードをインポートできます。たとえば 'Linux オペレーティング・システム用の StorageGRID インストール手順で説明されているように '/var/local' ボリュームが StorageGRID システムのデータ・ボリューム用に共有ストレージを使用した場合は、引き続き存在する可能性があります。ノードをインポートすると、ノード構成ファイルがホストにリストアされます。

ノードをインポートできない場合は、グリッド構成ファイルを再作成する必要があります。

次に、StorageGRID の再起動に進む前に、グリッド構成ファイルを検証し、予想されるネットワークまたはストレージの問題を解決する必要があります。ノードの構成ファイルを再作成する場合は、リカバリするノードに使用されていたのと同じ名前を交換用ノードに使用する必要があります。

ノードの /var/local ボリュームの場所の詳細については、[インストール手順を参照してください](#)

手順

1. リカバリされたホストのコマンドラインで、現在設定されているすべての StorageGRID グリッドノードを一覧表示します StorageGRID

グリッドノードが設定されていない場合、出力は表示されません。グリッドノードが設定されている場合は、次の形式で出力が表示されます。

Name	Metadata-Volume
dc1-adm1	/dev/mapper/sgws-adm1-var-local
dc1-gw1	/dev/mapper/sgws-gw1-var-local
dc1-sn1	/dev/mapper/sgws-sn1-var-local
dc1-arc1	/dev/mapper/sgws-arc1-var-local

ホストで設定する必要がある一部またはすべてのグリッドノードが表示されない場合は、そのグリッドノードをリストアする必要があります。

2. /var/local' ボリュームを持つグリッド・ノードをインポートするには ' 次の手順に従います

- a. インポートする各ノードに対して、「`sudo StorageGRID node import node-var-local-volume -path`」コマンドを実行します

StorageGRID `node import` コマンドが成功するのは ' ターゲット・ノードが最後に実行されたホスト上でクリーン・シャットダウンされた場合だけです。そうでない場合は、次のようなエラーが表示されません。

このノード (`node-name`) は ' 別のホスト (UUID `host-uuid`) が所有しているように見えます

「インポートが安全であることが確実な場合は、`--force` フラグを使用してください。

- a. 別のホストが所有しているノードに関するエラーが表示された場合は、コマンドを「`--force`」フラグを付けて再度実行し、インポートを完了します。「`sudo StorageGRID --force node import node-var-local-volume -path`」



「`--force`」フラグを指定してインポートされたノードは、グリッドに再参加する前に追加のリカバリ手順を必要とします (を参照) [次の手順：必要に応じて追加のリカバリ手順を実行します。](#)

3. /var/local' ボリュームがないグリッドノードの場合は ' ノードの構成ファイルを再作成してホストにリストアします

インストール手順の「ノード構成ファイルの作成」のガイドラインに従ってください。



ノードの構成ファイルを再作成する場合は、リカバリするノードに使用されていたのと同じ名前を交換用ノードに使用する必要があります。Linux 環境の場合は、構成ファイルの名前にノード名が含まれていることを確認します。可能な場合は、同じネットワークインターフェイス、ブロックデバイスマッピング、および IP アドレスを使用してください。これにより、リカバリ時にノードにコピーしなければならないデータ量を最小限に抑えることができるため、リカバリにかかる時間を大幅に (場合によっては、数週間から数分に) 短縮できます。



ノードの構成ファイルを再作成するときに、新しいブロックデバイス (StorageGRID ノードで以前に使用していなかったデバイス) を「`block_device_`」で始まる構成変数の値として使用する場合は、のすべてのガイドラインに従ってください [ブロックデバイスが見つからないエラーを修正します。](#)

4. リカバリしたホストで次のコマンドを実行して、すべての StorageGRID ノードを一覧表示します。

```
「 sudo StorageGRID node list 」
```

5. StorageGRID のノードリストの出力に表示されている各グリッドノードのノード構成ファイルを検証します。

```
sudo StorageGRID node VALIDATE_ NODE-NAME_`
```

StorageGRID ホストサービスを開始する前に、すべてのエラーまたは警告に対処する必要があります。以下のセクションでは、リカバリ時に特に問題となるエラーについて詳しく説明します。

関連情報

[Red Hat Enterprise Linux または CentOS をインストールします](#)

[Ubuntu または Debian をインストールします](#)

[ネットワークインターフェイスが見つからないエラーを修正](#)

ネットワークインターフェイスが見つからないエラーを修正

ホストネットワークが正しく設定されていない場合、または名前が間違っている場合、StorageGRID が「`/etc/storagegrid/nodes/_node-name.conf`」ファイルに指定されたマッピングをチェックするときにエラーが発生します。

次のエラーまたは警告が表示されることがあります。

```
'Checking configuration file`/etc/storagegrid/nodes/ node-name _conf `node_name_name...' の構成ファイルを確認しています `error:_node-name_:GRID_NETWORK_TARGET = host-interface-name` node-name:Interface-interface-`host-name` は存在しません
```

エラーは、グリッドネットワーク、管理ネットワーク、またはクライアントネットワークについて報告される場合があります。このエラーは、「`/etc/storagegrid/nodes/_node-name.conf`」ファイルが、指定された StorageGRID ネットワークを「`_host-interface-name_`」という名前のホストインターフェイスにマッピングしているが、現在のホストにその名前のインターフェイスがないことを示しています。

このエラーが表示された場合は、の手順を実行したことを確認してください [新しい Linux ホストを導入する](#)。すべてのホストインターフェイスに、元のホストで使用されていた名前と同じ名前を使用します。

ノード構成ファイルに指定されている名前をホストインターフェイスに付けることができない場合は、ノード構成ファイルを編集して、`GRID_NETWORK_TARGET`、`ADMIN_NETWORK_TARGET`、または `CLIENT_network_target` の値を既存のホストインターフェイスに一致するように変更できます。

ホストインターフェイスが適切な物理ネットワークポートまたは VLAN へのアクセスを提供し、インターフェイスがボンドデバイスまたはブリッジデバイスを直接参照していないことを確認してください。ホストのボンドデバイスの上に VLAN（または他の仮想インターフェイス）を設定するか、ブリッジと仮想イーサネット（veth）のペアを使用する必要があります。

ブロックデバイスが見つからないエラーを修正します

システムは、リカバリされた各ノードが有効なブロックデバイススペシャルファイル、

またはブロックデバイススペシャルファイルへの有効なソフトリンクにマッピングされていることを確認します。StorageGRID が「`/etc/storagegrid/nodes/_node-name_.conf`」ファイルで無効なマッピングを検出すると、ブロックデバイスが見つからないことを示すエラーが表示されます。

次のエラーが発生することがあります。

構成ファイル `/etc/storagegrid/nodes/_node-name_.conf` で、`node_name` などの構成ファイルをチェックしています `error: _node-name:block_device_purpose =path -name`node-name:_path -name_does not exist`

つまり `/etc/storagegrid/nodes/_node-name_.conf` は `_node-name_for` の目的で使用されるブロック・デバイスを Linux ファイル・システム内の指定されたパス名にマッピングしますが '有効なブロック・デバイス・スペシャル・ファイル' またはブロック・デバイス・スペシャル・ファイルへのソフト・リンクがこの場所がありません

の手順が完了していることを確認します [新しい Linux ホストを導入する](#)。すべてのブロックデバイスに、元のホストで使用されていたのと同じ永続的なデバイス名を使用します。

見つからないブロックデバイスのスペシャルファイルをリストアまたは再作成できない場合は、適切なサイズとストレージカテゴリの新しいブロックデバイスを割り当て、ノード構成ファイルを編集して新しいブロックデバイスのスペシャルファイルを参照するように `block_device_purpose` の値を変更します。

Linux オペレーティングシステムのインストール手順の「ストレージ要件」の表から適切なサイズとストレージカテゴリを決定します。ブロック・デバイスの交換に進む前に 'ホスト・ストレージの構成に記載されている推奨事項を確認してください



元のブロック・デバイスが障害ホストとともに失われたために 'block_device_' で始まる構成ファイル変数に新しいブロック・ストレージ・デバイスを指定する必要がある場合は 'リカバリ手順を進める前に '新しいブロック・デバイスがアンフォーマットされていることを確認してください共有ストレージを使用して新しいボリュームを作成済みの場合、新しいブロックデバイスはアンフォーマットされます。状況がわからない場合は、新しいブロックストレージデバイスのスペシャルファイルに対して次のコマンドを実行します。

注意

次のコマンドは、新しいブロックストレージデバイスに対してのみ実行してください。デバイス上のデータがすべて失われるため、リカバリされているノードの有効なデータがブロックストレージに格納されている可能性がある場合は、このコマンドを実行しないでください。

```
sudo dd if=/dev/zero of=/dev/mapper/my-block-device-name bs=1G count=1
```

関連情報

[Red Hat Enterprise Linux または CentOS をインストールします](#)

[Ubuntu または Debian をインストールします](#)

StorageGRID ホストサービスを開始する

StorageGRID ノードを起動し、ホストのリブート後もノードが再起動されるようにする

には、StorageGRID ホストサービスを有効にして開始する必要があります。

1. 各ホストで次のコマンドを実行します。

```
sudo systemctl enable storagegrid
sudo systemctl start storagegrid
```

2. 次のコマンドを実行して、導入の進行状況を確認します。

```
sudo StorageGRID node status _node-name_
```

ステータスが Not-Running または Stopped に対して、次のコマンドを実行します。

「sudo StorageGRID node start _node-name_」のように入力します

3. StorageGRID ホストサービスを以前に有効にして開始している場合（またはサービスを有効にして開始したかどうか分からない場合）は、次のコマンドも実行します。

```
sudo systemctl reload-or-restart storagegrid
```

正常に開始しないノードをリカバリします

グリッドに正常に再参加できずリカバリ可能と表示されない StorageGRID ノードは破損している可能性があります。ノードを強制的にリカバリモードに設定することができます。

ノードを強制的にリカバリモードにするには、次の手順を実行

```
sudo StorageGRID node force-recovery _node-name_
```



このコマンドを実行する前に、ノードのネットワーク設定が正しいことを確認してください。ネットワークインターフェイスのマッピングまたはグリッドネットワークの IP アドレスまたはゲートウェイが正しくないために、ノードがグリッドに再参加できなかった可能性があります。



StorageGRID node force-recovery _node_name_ コマンドを発行した後 '*node-name*' に対して追加のリカバリ手順を実行する必要があります

関連情報

次の手順：必要に応じて追加のリカバリ手順を実行します

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。